冷食タイムス
The Frozen Food Times

2019年(令和元年) 第2190号
5/21【火】毎週火曜日発行
発行所 水産タイムズ社
(昭和45年7月9日第三種郵便物認可)
東京都港区芝5-9-6 http://www.suisantimes.co.jp
電話 (03)3456-1411(代表) FAX (03)3456-1416

選ばれつづける仕事。
日本最大の低温物流ネットワーク
Nニチレイロジグループ
www.nichirei-logi.co.jp

日刊速報「冷食タイムス」
月～金曜日発行(祝祭日を除く)PDFでメール配信

10連休の動き

大きな混乱なし
先付け在庫でカバー、休日出勤も

史上最長の10連休は、当初懸念された発注、物流などに大きな混乱はなく、メーカー、問屋ともに対応可能な範囲で業務を消化した模様。(各社の連休中の動きと対応、感想などを3面にまとめ、佐藤)

確認できたメーカーで受発注や出荷・納品に大きなトラブルが発生したところはなかった。

問屋では連休前に商品を買いためるため受注にやや混乱があったとする企業が散見あったが、出荷と納品も含め「問題なかった」というところは一件もなかった。

連休中に得意先から受注、メーカーへの発注や配送のため社員を何日か出勤させたところは少なくない

が「全社出社日でも有給休暇の従業員がいた」(ウルノ商事)、「施設(ハウディ、きゅうりさい、外食料飯店(ハウディ、ウルノ商事、きゅうりさい、中村角、ジーケーエス)など、「デイクロ弁当(オードブル)」(ヤヨイサンフーズ)、「施設・病院(テザート・和菓子)」(同)。連休直前に放映されたテレビの冷食総選挙で紹介された家庭用商品は連休中に良く動いた(日本水産、KS冷食、テーブルマーク)。

学校の給食実施数、行事食影響

連休明けに現場では何が起きたか。「新元号和利用(ウルノ商事)。

通常より配送対応が限られたため、在庫は大幅に減った問屋が多かったが、事前に多めに仕入れたところは「一部在庫過剰」(ハウディ、ウルノ商事、中村角)となっている。

連休が終わってからは、当初懸念通り「荷動きが鈍い」とする卸が多い。

また連休中は学校給食の実施回数が例年よりの少なかったため、「5月の学校給食向け売上げは減少必至。「4月の売上げが悪いとうわけではないが、昨年に比べ前倒しの注文もあり5月と合わせて見ないとわからない」(名給)。

しかも通常の5月に実施される「こどもの日」などの行事食は、今年この期間が限られたため、この分の売上げは例年に比べると純減となる。「こどもの日の行事食を4月中にするわけにもいかず、連休明けでは遅すぎる」(名給)。

メーカーは「アイテムごとの在庫準備量を見極めるのが難しかった」(ヤヨイサンフーズ)。連休明けに「部アイテムが品薄になった。

大阪の学校給食関係者にとってはさらに減収要因が重なる。6月旬大阪で開催される「G20大阪サミット」が開催に合わせて厳重な警戒態勢が敷かれるため、大阪府立・私立校は28～29日に完全休校となり、周辺の吹田市、高槻市でも学校給食はなしとなる。期間中の業務用車両の交通規制も厳しくなるため、その影響は少なくなさそう。

10連休は長過ぎもうやめて！

10連休を経験した業界で「長過ぎる」、「連続入社休暇は不要」、「会社の負担が多い」など長い休暇に困惑した感想が多く聞かれる。

ハウディは連休明けにチルド商品の賞味期限対応に追われた。国民総連休のムードが醸成されたことも疑問を投げかけ「全国一斉休暇は不要」、「ルノ商事も「本当に10連休が必要だったのか」と表現。中村角は「長期連休は勘弁しでほしい」と訴える。

ナックス創業者 中村博一氏が逝去
家庭用冷食卸のパイオニア
木村鑛二郎氏に師事、業界人多数を育てる

故・中村氏

(株)中村博一商店」(現(株)ナックス)創業者、元社長で中村孤国会フードクリエイト(株)常務の父中村博一氏(なかむら・ひろかず)氏が16日午前0時35分死去した。87歳。

通夜は17日、葬儀・告別式は18日、いずれも神戸市兵庫区の斎場で執り行われる。喪主は次男典正(のりまさ)氏(国分フードクリエイト(株)常務取締役)。

故中村氏は昭和36年ナックスの前身中村博一商店を創業。日本冷凍食品協会の初代会長を務めた木村鑛二郎・日本冷蔵(現ニチレイ)社長のアドバイスと指導を受け、わが国最初の冷食卸を開始。

38年タイエー三宮店(神戸市、当時)に日本初の家庭用冷凍食品売場の開設に貢献し、わが国初の家庭用冷食卸として発展させた。喪主の典正氏がナックスカムラを経て現ナックスとなった。

業界の第一線を退いても冷凍食品に対する愛情と情熱を持ち続けたが、近年は体調を崩し療養していたという。

展拡大する礎を築いた。その後も自らの経験と鋭い感性を生かして冷凍食品メーカーの事業展開を支援指導し、草創期に多くの業界人を育てた。

中村博一商店はその後経営権の異動などに伴いナックスカムラを経て現ナックスとなった。

業界の第一線を退いても冷凍食品に対する愛情と情熱を持ち続けたが、近年は体調を崩し療養していたという。

喪主の典正氏はナックスナカムラの代表取締役専務を務めた。

解凍乱麻

冷凍食品業界にとって〝巨星堕つ〟の感が大きい。中村博一氏(87歳)の訃報に接しての感想である。月並みな言葉かも知れないが、「一時代が終わった」との想いが強い▼中村博一氏は神戸市内で家業を継ぎ、のちに冷凍食品の専門卸「中村博一商店」を創業。冷凍食品の普及創期においてダイエーや灘神戸生協とともに市販冷凍食品の市場を切り開いた開拓者である▼日本冷凍食品協会の木鑛二郎初代会長を敬慕し、木村氏が唱えた「冷凍食品はフレッシュフーズを信奉」の精神、「営業担当者は見知っていても、自信を持って仕事をしています。いい商品を作って、実績を上げ、さらにいい商品を作るというサイクルがうまく回っているようです。

――家庭用冷凍食品市場をどう見ている？

吉田 日本の冷凍食品はどれもおいしい。それがかなりリーズナブルな価格で販売されているとも驚きました。これからもっと間口を広げられないかと思っています。今までは主に主婦層がメーンで購入していましたが、コンビニエンスストアの売場が広がり、若年層の購入が増えているのはいい傾向です。食卓にもメニューとして、冷凍食品が当たり前のように選択肢の1つになるような仕事を推し進めていきたいですね。

フローズンを不変の価値として広く訴えるべきだ」と迫力ある発言を行ったことが忘れられない▼愛想を言わず、容赦ない檄を飛ばすので軟弱な営業マンは敬遠したが、有為な営業マンが呉越同舟で集い、冷凍食品の未来について熱く語り合う、あたかも梁山泊の趣きを呈する時期もあった▼故人は手紙を書いて怒られたが、会えば当業をねぎらってくれる親分肌の一面があった。東京事務所に博一氏を訪ねた時に、「昼飯でもどうか」と誘われ、育てたところのコンビニの弁当が出てきたのには恐れ入ったが、これぞ研究熱心な博一氏の本領発揮と感服した▼奇抜なアイデアマンで人がやらないことに次々と挑戦、失敗談もなくないが会社は活力に満ち、業界にも多大な刺激を与えた。合掌。

目次
有力企業の決算 ……2
☆各地で関連団体の会合……4
☆増田屋、名給、尾家産業の展示会……5
☆仙台で復興展示会……6

今週の一枚

くまモン上海出張 ジェトロと一緒に

シアル・チャイナで九州の麺類をアピールする小型の「くまモン」

本社シアル・チャイナ視察団が帰国

ジェトロ過去最大規模で出展
銀河食品で工場視察後懇談も

過去最大規模で出展したジャパンパビリオン

水産タイムズ社主催「シアル・チャイナ視察ゼミナール(上海&杭州)」の一行13名は3月4日の視察を終え17日無事帰国した。

一行は上海で開催のアジア最大級の国際食品見本市「SIAL CHINA 2019」を視察した。同展には世界各国から3400社が出展、3日間の会期中11万人を超える来場者で賑わった。

日本貿易振興機構(JETRO)は3年連続4回目のジャパンパビリオンを出展。前回の約1・5倍となる過去最大規模のパビリオンを設け、中国場への初輸出をめざす9社を含む41社・団体が、菓子・米・飲料・調味料・日本酒などをアピールした」ジェトロ。

他に、上海市内では大丸百貨店の地下にテナント出店する超高級スーパー「LOCAL(オーレ)」や、米国系スーパー「Walmart(ウォルマート)」、CVS「全家(ファミリーマート)」なども視察した。

一行は高鉄(新幹線)を利用して上海から浙江省杭州市に移動し、IT企業の阿里巴巴集団(アリババ・グループ)が運営する食品スーパー「盒馬鮮生」を訪問。架空通貨「Alipay(アリペイ、支付宝)」を使った買物現場を視察した。

また冷凍野菜の有力企業「江銀河食品」を訪問して4階建て工場と5階建て検査センターを視察し、汪中央総経理に歓迎を聞いた。

さらに夕食後は、同市の貿易会社「杭州日新進出口」の鏡人冷凍事長らと合流して懇談した。

銀河食品を訪問した一行(前列左から4人目が汪総経理)

海外経験活かし、仕事は肌感覚で

トップインタビュー

現場に行って、見て、聞いて

日清食品冷凍㈱
代表取締役社長
吉田 広之 氏

(よしだ・ひろゆき)1986年日清食品入社。タイ、インドネシア、メキシコ、ブラジルと海外生活は20年以上。今年4月1日付で現職。1963年8月24日生まれ、55歳。大阪府立大経済卒。三重県出身。

4月1日付で社長に就任した。海外勤務が長く、地域も多様。モットーは「自ら現場に足を運び、肌感覚を持って仕事をすること。毎日、自社製品を食べる日が続いている。(高橋)

――海外勤務が長い。即席めんの営業責任者としてインドネシアに赴任したのが最初です。次にタイ日清の2代目社長としてタイに赴任しました。その後、一度日本に戻って1年後にメキシコ。生産工場を持つ現地法人(メキシコ日清)の立ち上げに携わりました。アメリカではライバルメーカーと激しい価格競争を繰り広げながらも、新しい価値の1ドル商品市場の育成に務めました。米州総代表兼ブラジル日清会長を経て8年ぶりに日本に戻ってきました。

――文化の違い大きかったのでは？

吉田 どの国にも共通するのが、上から目線ではうまくいかないということです。なぜそうするのか、ロジックを持って説明し、納得してもらうことが重要です。現地社員にとって私は外国人ですから、彼らにもプライドがあります。人と働いてもらう方法に関しては、個人的にハウハウを蓄積できたと思います。

――社長としての抱負を。

吉田 海外ではうまくいかないことだらけなので、現場に足を運び、自分で見て、聞いて、食べてみて、肌感覚を持って仕事をしてきました。これが私のモットーでもあるので、まずは社内の各部署、グループ会社を含め子産工場などを回って理解を深めているところです。幸い、ブランドを強くして単品の強化を図るという方向性はしっかり揺がないでいるので、これをベースにいかに新しい戦略を組み入れるかがこの先問われると思っています。営業担当を見知っていても、自信を持って仕事をしています。いい商品を作って、実績を上げ、さらにいい商品を作るというサイクルがうまく回っているようです。

――家庭用冷凍食品市場をどう見ている？

吉田 日本の冷凍食品はどれもおいしい。それがかなりリーズナブルな価格で販売されているとも驚きました。これからもっと間口を広げられないかと思っています。今までは主に主婦層がメーンで購入していましたが、コンビニエンスストアの売場が広がり、若年層の購入が増えているのはいい傾向です。食卓にもメニューとして、冷凍食品が当たり前のように選択肢の1つになるような仕事を推し進めていきたいですね。

冷食タイムス その日のニュースが、その日の夕方に
電子版日刊速報 好評です
スマホにメール配信も
株式会社水産タイムズ社

サンマックス
ユニークなアイデアと フレキシブルな思考。

サン・プラント工業 株式会社
本社 〒570-0011 大阪府守口市金田町3-39-11
TEL 06-6902-2943 FAX 06-6902-2986
URL:http://www.sunmax.jp E-mail:web@sunmax.jp
関東営業所 〒277-0806 千葉県柏市柏インター東5-7 TEL 04-7133-5311 FAX 04-7132-5707
東北営業所 〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野4-7-1-101 TEL 022-387-2672 FAX 022-387-2673
九州営業所 〒819-0162 福岡県福岡市西区今宿青木100-8-508 TEL 092-407-0381 FAX 092-407-0382
北陸工場 〒924-0004 石川県白山市旭丘1-9 TEL 076-275-1171 FAX 076-275-6113